

剣 界

令和2年度



青森県剣道連盟

会長挨拶

増田 知幸



運営をなんとかできるよう努力いたします。

さて、昨年4月以来新理事長に藤田幹彦氏、新事務局長に時吉重雄氏を選出し、併せて2026年2

巡目青森国民スポーツ大会の選手強化を図るため、

試合経験の豊富な今村茂也氏をはじめ近藤将造氏・

福島成利氏の力を借りて一層強力な取組みを図る組

織を新設しました。コロナウイルスには出端を挫か

れた様子になりましたが、現況が沈静化したらウイ

ルに負けないよう活動し効果をあげたいと考えて

おります。

役員はじめ高段者の皆様及び保護者の皆様には、

これまで国体寄付金等でご支援いただいております。

これ以上悲惨な状況にならぬように祈るととも

に、普通の日々が戻り剣道を心行くまでできる日々

が早く訪れることを願うばかりです。

当剣道連盟も令和2年4月以来多くの事業を中止

に致しましたが、今のところ来年度も見通しは不透

明ですので、コロナ禍の状況を勘案しながら連盟の

令和三年二月一日

高段位・称号取得者

令和2年

高段位・称号取得者

杖道7段 (山梨) 1月24日

神 良子

剣道錬士 (京都) 5月6日

柴田 康太 甲地 清輝

剣道教士 (京都) 5月6日

伊神 勲

剣道錬士 (東京) 11月24日

逢坂 和志 村田 圭祐

木村 大佑 成田 大樹

阿保 朗 木明 裕二

田中 絵里子

居合道錬士 (東京) 11月24日

佐藤 孝雄

剣道教士 (東京) 11月24日

太田 裕子 足澤 一成

上手 康弘 石澤 徳成

小山内 範好 小渡 一志

第68回全日本都道府県対抗剣道優勝大会予選会

令和2年2月2日 10時～みちぎんドリームスタジアム

残念ながら本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、男女ともに全日本都道府県対抗剣道優勝大会が中止となりました。

男子大将の部

50歳・教士7段以上

渡邊 大三（青森刑務所）

男子副将の部

35歳以上・教職員、警察職員以外

三上 学純（宗教法人 一念寺）

男子三将の部

警察職員

一位 佐藤 大樹（県警機動隊）

二位 榊 和也（県警機動隊）

三位 成田 海（県警機動隊）

三位 杉山 寛明（県警機動隊）

男子次鋒の部

大学生

一位 塚尾 凌河（日体大学）

二位 前河原 陸（青森大学）

三位 阿部 峻大（青森大学）

三位 傳法 優生（国士館大学）

男子先鋒の部

令和元年高体連新人戦優勝者

田中 拓光（八工大一高等学校）



男子中堅の部

教職員

中村 雅人（三沢第一中学校教員）

男子五将の部

18歳～35歳未満

（教職員、警察、大高生、高校生を除く）

一位 倉本 健（青森刑務所）

二位 瑞慶覧 佑介（青森刑務所）

第12回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会予選会

令和2年2月15日 10時～青森県立商業高等学校剣道場

女子先鋒の部

令和2年高校総体個人優勝者

未定

女子次鋒の部

一位 小松 加奈（明治大学）

二位 伊勢 小夏（青森大学）

女子中堅の部 18歳～35歳未満

一位 久保田 友美（名久井小教師）

二位 近藤 瑛美（五所一高教師）

女子副将の部

安田 麻衣（下長中教師）

女子大将の部

一位 長尾 由香子（宗教法人浄満寺）

二位 今井 身知子（弘前剣道連盟）



令和二年度 青森県剣道連盟定例総会

令和二年二月二十三日 午後1時開始
於 青森市新町「アラスカ会館」

司会進行

時吉 重雄事務局長

居合道6段

一 開会の辞

里村 誠悦副会長

佐藤 孝雄 (11月30日 東京)

二 会長挨拶

増田 知幸会長

鎌 士

三 顧問挨拶

津島 雄二名誉顧問

小野 英人 (5月6日 京都)

白津 真也 黄金崎 勝

横山 和夫

乗上 功(居合) 吉田 英人(居合)
以上5名11月27日 京都

教士

細川 博樹 長尾 由香子

工藤 徳彦 (5月6日 東京)

青山 和伸 木野田 久

村田 賢一 高津 博之

堀内 勇人 山谷 邦平

角田 正美(居合)

以上7名11月27日 東京

五 表彰

剣道有功賞受賞者

青森県剣道道場連盟理事

伊藤 宗祐 (全国68名)



四 令和元年度称号・高段位審査合格者
剣道6段
田中 恵理子 (11月17日 愛知)
神 慎太郎 (11月26日 東京)
逢坂 和志 (11月26日 東京)
成田 大樹 (11月26日 東京)
剣道7段
木明 裕二 (5月11日 京都)
古山 直輝 (8月11日 北海道)
田村 正人 (11月16日 愛知)
前堀 真 (11月16日 愛知)
杉山 英晴 (11月16日 愛知)
松村 明昇 (11月27日 東京)



少年剣道教育奨励賞受賞団体

板柳少年剣友会

野辺地剣友会 (全国280団体)



会長賞 贈呈(記念碑)

第28回高等学校剣道選抜大会
女子団体優勝東奥義塾高等学校



六 議長選出

近藤 将造参与

七 議事

(一) 全日本剣道連盟専務理事理事長
会議の報告

(二) 令和元年度庶務・事業報告

(三) 各部からの報告

(四) 令和元年度会計監査報告

(五) 令和元年度会計収支決算報告

(六) 令和元年度役員寄付金団体協力
金及び国体協力金の報告

(七) 長期計画の基づく予算編成につ
いて

(八) 東北剣道連盟役員会の報告

(九) 常任理事会承認事項の審議

ア 令和2年度事業計画

イ 令和2年度予算案

ウ 役員の改正

エ 青森国スポ準備委員会の発足
才 支部提出議案



八 閉会の辞

里村副会長

長期計画に基づく予算編成について、
一部継続審議を残すも、その他提出さ
れた議事・議案は、満場一致にて承認
可決された。

ご挨拶を頂戴いたしました、津島
雄二名誉顧問御令室様のご逝去の報に
接しましたのは、総会の2か月後の事
でした。
本紙面で大変恐縮ではございますが、
謹んでお悔やみを申し上げますとともに、
心からご冥福をお祈り申し上げます。

剣道段位審査員研修会

日時 令和二年三月十五日(日)
場所 みちぎんドリームスタジアム

令和二年度の剣道段位審査会の骨子を定めるための剣道段位審査員研修会が、新型コロナウイルス感染症の感染予防に配慮しながら、県剣道連盟役員と審査員選考委員、及び剣道段位審査員の参加を得て行われた。

開会行事の後、昨年度の反省点と検討課題等について説明があり、協議を通して今年度の審査要項等について確認された。

その後、長内範士、鹿内教士、工藤教士を講師に「木刀による剣道基本技稽古法」「日本剣道形」「基本技術」等の研修を行い、最後に剣道高段位審査受審者の模擬審査の後、指導稽古と参加者全員による相互稽古が行われた。



《令和二年度学科試験内容》

〔必須問題〕

・初段～五段（共通）

「剣道の理念」及び「剣道修練の心構え」

・初段

「礼の考え方」

・二、三段

「試合の目的」

・四、五段

「剣道指導の在り方（指導者）」

〔選択問題〕

・初段

①有効打突

②残心

③足さばき

④打突の好機

・二、三段

①攻め合い

②構えと目付

③気剣体の一致

④三殺法

・四、五段

①指導のねらい

②審判員の心得

③平常心

④四戒（驚・懼・疑・惑）

※選択問題は、各段とも当日前述の問題から二問出題する。

※学科問題は「剣道指導要領」「剣道講習会資料」

「剣道試合・審判規則・細則、運営要領」「日本剣道形解説書」等から出題する。

《令和二年度実技試験内容》

〔剣道実技〕

・初段～三段（初、二段は三組六人編成、三段は二組四人編成）



①切り返し二往復

*体当たりをする切り返し

②稽古（相手を替えて二回実施）

・四、五段（二組三～四人編成）

①稽古（相手を替えて二回実施）

〔日本剣道形〕

・初段（三組六人編成）

太刀の形三本

一本目～三本目

・二段（三組六人編成）

太刀の形五本

一本目～五本目

・三段（二組四人編成）

太刀の形七本

・四、五段（二組四人編成）

太刀の形七本

小太刀の形三本

※実技合格者に対し実施する。

※日本剣道形審査上の着眼点（全日本剣道連盟・日本剣道形解説書）に準じて審査を行う。

令和二年度 第七十一回青森市中学校体育大会夏季大会
日時 令和二年七月二十五日 九時より
会場 青森市立造道中学校 体育館

選手紹介 男子

甲田中学校	山田 昂毅	筒井中学校	奥村 向陽	松名瀬 天翔
南中学校	館田 よも	林 清人	福田 涼介	
大里 太陽	熊谷 駿平	造道中学校	木下 陸	
浪岡中学校	成田 慶次郎	滝田 風太		
伊藤 大晟	成田 幹汰	西中学校	佐藤 豪大	三橋 蓮
大平 克幸	伊藤 広晟	唐川 健太		
古川中学校	優勝	山田 昂毅 (甲田中学校三年生)		
辻村 泰時	佐藤 舜太郎	川村 啓哉 (三内中学校三年生)		
清野 晏	佐々木 優成			
小笠原 惺太				
沖館中学校				
大矢 翔吾	一戸 遥斗			
中林 来華				
三内中学校				
豊田 大和	白井 煌乃			
山田 敬斗	川村 啓哉			
油川中学校				
山田 優弥	森 健太郎			
浦町中学校				
久保 慎	西田 圭吾			
東中学校				
横内 大地	平澤 亮			
佐藤 康成				



選手紹介 女子

沖館中学校	山内 璃瑚	成田 陽南
佃中学校	葛西 灯莉	猪俣 芽以
藤田 奈子		
三内中学校	伊藤 凛	
伊藤 滯	伊藤 凛	
石岡 芭音		
筒井中学校	橘 愛美	松野 綾香
南中学校	南 朋華	齋藤 華
浪岡中学校	櫻庭 こころ	雪田 梨乃
油川中学校	中谷 奏音	
古川中学校	池内 萌恵	
優勝	山内 梨瑚 (沖館中学校三年)	
準優勝	藤田 奈子 (佃中学校三年)	



試合終了後に大会長から、「今後思うようにならないこともたくさんあると思います。その時は、周囲に助けられ、開催された今回の試合を思い出してください。」

審判長からは、「違った環境の中でも、今やれること、今できることを一生懸命やってください。」という激励の言葉をいただきました。

新型コロナウイルス禍のなかで、限定的ではありますが、皆さんの努力はもろろんですが、ご指導いただいた先生方や、応援していただいたご家族、剣友の方々のおかげであると感謝いたします。

今日の試合で勝利をした君は、勝ち上がるたびに、マスクとフェイス・シールドに苦しめられた今日の試合を決して忘れないでください。

今日の試合でたまたま成果を残すことが出来なかった君は、次の試合の為に剣友と共に修練を重ねてください。君たちには無限の可能性があることを信じてください。



令和2年度 高等学校新人剣道選手権大会

むつ市マエダアリーナ

令和2年11月22日(日)・23日(月)

男子団体決勝トーナメント

青森北	4-0	弘前実
工大一(本数勝ち)	1-1	八戸
青森西	2-1	五所一
▽準決勝		
東奥義塾	2-1	青森北
青森西	2-1	工大一
▽決勝		
東奥義塾	1-1	青森西
下新井田	1-メ	中林○
林下	1-1	福井
岩澤	1-1	泉
○大阪	メ-1	岩谷
神	1-1	西田
代表決定戦		
○神	ド-1	西田
優勝		東奥義塾高校
準優勝		青森西高等学校
第三位		青森北高等学校
第三位		八戸工業大学第一高校



女子団体決勝リーグ

東奥義塾	5-0	弘前実業
五所川原第一	0-3	青森西
東奥義塾	3-0	五所川原第一
弘前実業	0-3	青森西
東奥義塾	4-1	青森西
弘前実業	5-0	五所川原第一
優勝		東奥義塾高校
準優勝		青森西高校
第三位		弘前実業高校
第三位		五所川原第一高校



東奥義塾高等学校男子団体優勝は3年連続27度目の優勝であり、令和3年に愛知県春日井市で開催の全国選抜大会に出場。

東奥義塾高等学校女子団体優勝は13年連続15度目の優勝。青森西高等学校と共に愛知県春日井市の全国選抜大会に出場する。また、男女とも上位4校は、2月に行われる東北選抜大会に出場する。

男子個人準々決勝

大坂	ツ-1	石鉢
(東奥義塾)	延長	(八工大一)
工藤	ド-1	石田
(青森北)	延長	(ウルスラ)
西田	ド-1	船橋
(青森西)		(青森西)
神	ド-1	白戸
(東奥義塾)		(五所川原第二)
▽準決勝		
大坂	延長	工藤
神	延長	西田
▽決勝		
神	延長	メ-1
優勝		大坂
準優勝		神
第三位		大坂
第三位		工藤
第三位		西田



個人優勝の選手は、令和3年4月に大阪府で開催の第68回全日本都道府県対抗剣道選抜優勝大会における本県チームの「先鋒」としての出場権が与えられる。

女子個人準々決勝

渡辺	メ-1	山田
(東奥義塾)		(東奥義塾)
中沢	ド反-1	船水
(東奥義塾)		(青森西)
太田	メ-1	小保方
(東奥義塾)	延長	(東奥義塾)
木村	メ-1	木村
(青森北)	延長	(東奥義塾)
▽準決勝		
中沢	メ-1	渡辺
太田	メ-1	木村
▽決勝		
太田	延長	ド-1
優勝		中沢
準優勝		太田
第三位		中沢
第三位		木村
第三位		渡辺
第三位		明夢



今年度は、むつマエダアリーナを会場に11月22日(日)～23日(月)の2日間にわたって開催しました。むつ市では実に23年ぶりの開催でした。諸先生方の御理解と御協力のもと無事終えることが出来たことに、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、男子団体戦では強豪東奥義塾と新鋭青森西が激突。1対1の大将戦までもつれ、代表戦となった。代表選では、個人戦でも優勝した神が落ち着いた試合展開で代表戦を制し、東奥義塾が3年連続27回目の優勝を飾った。女子団体戦は4校による決勝リーグ(総当たり)を行い、東奥義塾が他を寄せ付けない圧倒的な強さで13年連続15回目の優勝を飾った。

男子優勝の東奥義塾と女子優勝の東奥義塾、第2位の青森西は3月に行われる全国選抜大会に出場する。
青森県高体連剣道専門部
委員長 木村 秀樹

講習部

1 日程について

○4月11日、4月12日、5月17日

8月29日 予定された講習会中止

○9月27日(日)

みちぎんドリームスタジアム

審判講習会、審判法、公認審判員審査、受講数23名にて開催

2 内容について

○今年度はコロナ感染症の影響で、予

定していた伝達講習会が全て中止となった。

○昨年まで伝達講習会の中に公認審判員審査会を組み込んでいたため、どうしても審判法に配分する時間が少なく効果が薄くなる傾向があったため、審判の技量・知識の向上を目的に年2回の審判講習会の実施を予定していたが、コロナ感染症の影響により9月のみ実施することができた。

審判講習会には23名、公認審判員審査には16名受審と参加人数が少なかつたものの、審判法講義及参加者全員の審判実技を実施することができ、内容の濃いものとなり、受審者全員が合格することができた。



3 まとめ

○講習部員も8名に増員し、各講習会できめ細かい指導ができるよう計画した。

○今後の情勢にもよるが、来年度も中央講習会での内容をもとに、今年度同

様の予定で進め、わかりやすい伝達講習を心掛けていきたい。

また、審判講習会では、受審者の審判技量・知識を確認し、向上できるように講習を進めていきたい。



審査部

青森審査会(8月9日マエダアリーナ)

初段 受審者114名 合格者106名

合格率 93%

二段 受審者47名 合格者44名

合格率 93.6%

三段 受審者30名 合格者30名

合格率 100%

四段 受審者14名 合格者11名

合格率 78.6%

五段 受審者8名 合格者7名

合格率 87.5%

反省会が出された事項

1. 運営面について

事前に審査での所作について、要項

と一緒に発送したかどうか。

※総会の別添資料として、全支部に配布する方法等も検討する。

2. 審査について

新型コロナウイルス感染対策として、初段から三段までの切り返しをなくしたため、

・審査時間が短かった(初段から三段までは30秒、四・五段は40秒で実施)

・初段、二段の審査を2組4人にしてはどうか。

※受審者数などを考慮しながら検討する。

3. 受審者について

・礼法が出来ていない。
・日本剣道形二本目が出来ていない。
※指導者の問題。

定例審査会(10月31日 マエダアリーナ)

初段 受審者118名 合格者115名

合格率 97.5%

二段 受審者85名 合格者83名

合格率 97.6%

三段 受審者30名 合格者29名

合格率 96.7%

四段 受審者12名 合格者8名

合格率 66.7%

五段 受審者8名 合格者5名

合格率 62.5%

反省会が出された事項

1. 運営面について

・四・五段の組み合わせで同地区同士が当たった。

※人数や年齢構成によって仕方ない場合もあるが、今後配慮をする。

・実技審査において2組4人編成のところを3組6人編成で実施してしまつた。

※実施要項等を重視して行う。

・採点用紙に誤りがあつた。

※修正する。

2. 審査について

・初段から三段までの切り返しの実施について。

※審査員研修会において、検討する。

3. その他

・会場（アリーナ）から、駐車場の指定や入場制限などについて依頼があつた。

※要項に明記し、徹底を図る。



事業部

中止された事業

4月11日 東日本伝達講習会
4月12日 審判講習会

5月30日 国スポ予選会

6月20日 玄妙杯 青麗杯

7月12日 剣道段位弘前審査会

8月29日 南部地区講習会

9月6日 剣道段位八戸審査会

実施された事業

○3月15日 段位審査員研修会

○8月9日 剣道段位青森審査会

○9月27日 審判講習会

○11月14日 剣道段位定例審査会

今年度は、新型コロナウイルスによる影響で、ほとんどの行事が中止になりましたが、若干の審査会、講習会において、会場準備から運営まで滞りなくできた。コロナ感染拡大防止のための、対応、対策について特に問題点が指摘されなかったが、気を緩めることなく、来年度の行事すべてを実施できるように準備していきたい。



女子部

1. 第15回小学生女子剣道錬成会

11月1日（日）…青森大学正徳館

・新型コロナウイルス感染症が終息しないため、参加者の健康、安全を考え中止にしました。

例年、錬成会に4回以上参加した6年生に竹刀を贈呈していましたが、今後の錬成会は出来ませんでした。今回、活躍を期待し、11名に竹刀を贈りました。



※平成29年度写真

2. 稽古会

・年間5回（4月19日、5月23日、6月28日7月23日、8月10日）計画しましたが、新型コロナウイルス感染症のため、すべて中止にしました。

・宮城県女子稽古会中止。

3. 全剣道講習会

・第25回女子剣道審判講習会中止

・社会体育指導員養成講習会中止

4. 各種大会

第62回東北北海道対抗剣道大会中止

第12回全日本都道府県対抗女子優勝大会中止

第47回東北総合体育大会延期

第59回全日本女子選手権大会延期

5. 総括

・今年度は新型コロナウイルス感染症のため、すべての活動を中止し、自粛しました。未だコロナウイルスが終息していませんので、来年度も県連の指導のもとに、稽古会、各種大会に向けて活動していきたいと思ひます。

杖道部

1月18日監査会（弘前市勤労青少年ホーム）開催

出席者は監事2名、会計担当、副部長、事務局長の5名出席。

鳴海氏が会計担当を辞し、後任は佐々木氏が引き継ぐことになっているが、参加できなかったため、事務局長が書類を引き継ぐ。

コロナ禍により、3月28日の役員会・定例総会（青森市スポーツ会館会議室）が中止になり、各地区の代表者から会員に伝える連絡網で予算・行事を承認・確定。

しかし、コロナ禍による3月の定例総会開催中止に続き、7月伝達講習会並びに級審査会も中止。

続く、9月の講習会並びに段位審査会（青森市スポーツ会館）は従来の2日間の日程を1日間に短縮して開催。

・講習会並びに段位審査会

9月22日青森市スポーツ会館 受講者15名

・段審査受審者4名、合格者4名、【三段1名、二段1名、初段2名】

来年度に向けての抱負であるが、今年度は、1月24日全剣連主催の杖道地区審査会（山梨県甲府市）で、神良子先生が念願の七段に合格。幸先良いスタートを切ったが、思いもよらないコロナ禍に見舞われ、行事の中止、体育施設の閉鎖が相次いだ。次年度以降も改善する見通しが立たない状況であるが、県内4地区における稽古の充実、会員相互の親睦をはかることで、杖道の振興・発展を図っていきたい。

居合道部

事業報告

令和2年2月29日

令和2年度定例総会（27名出席）

ウェディングプラザ アラスカにて

※以降の事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策等により中止。

令和3年事業計画（案）

【県内の部】

1.居合道部総会

2.春季居合道講習会

3.春季県下居合道大会

4.春季居合道段位審査会

5.東北・全日本大会出場者強化稽古

6.居合道中央講習伝達講習会

7.秋季県下居合道大会

8.秋季居合道段位審査会

【県外の部】

1.東北居合道審判講習会

2.第50回当方居合道大会

未だ新型コロナウイルス感染収束の兆しが見えず、閉塞感に押し潰されそうになりますが、そんな今だからこそ、刀法鍛錬の居合道です。

古来より刀は神聖なものであり、神や霊力が宿り、邪気を払う力をもつと信じられてきました。江戸時代においては、武士の魂とも言われました。

刀法鍛錬の居合道は、心の不安や弱さを斬り払い、健康な心身を養えます。また、仮想敵を想定した稽古のため、人との接触がなく、感染リスクを回避しながら安心安全に稽古できます。

居合道に興味関心のある方は、事務局・角田（☎080-1555651-9900）まで、ご連絡ください。お近くの道場をご紹介します。お待ちしております。

師を語る 母を語る

故郷青森で出会った恩師たち
いただいた剣縁に感謝

鹿内 修



剣道の道に導いてくれた

第三田名部小学校工藤強夫先生

昭和三十八年、本州は最北端、三大霊場の一つ恐山で有名な青森県むつ市で、父（故・定雄）、母（要子）の六人兄弟の末っ子として生まれ育ちました。父は当時では珍しく隣の旧制野辺地中学校（現在の県立野辺地高校）に進学し、また母も旧制の五所川原高等女学校（現在の県立五所川原高校）に進学しており、とても教育熱心な両親でした。

まず、剣道との出会いであり、剣道の道に導いて下さった工藤強夫先生についてお話ししたいと思います。当時の第三田名部小学校には四年生から入部出来る特別クラブが幾つかあり、その中の一つに剣道クラブがありました。同級生男子の半分くらいは皆、剣道クラブに入部しており、私は全く興味がなく、将来はプロ野球選手を夢に

見る野球少年でした。

四年生の六月か七月に運動会があり、終了後に父が当時PTAの役員をしていた関係からか、ある程度出来上がった先生方が数名、我が家に二次会として来ていたのでした。その中の一人に六年生の担任で学校一恐れられていた、剣道クラブ顧問の工藤強夫先生（当時四十歳代・剣道初段）が、いきなり「明日放課後、体育館に来い！」の一言で剣道を始めることとなったのです。（恐怖のあまり、抵抗できない状況であった。）

その年の十二月に地区の防犯剣道大会で初めて試合に出させてもらって、同級生に簡単に負けてしまいました。（四月から始めた同級生との差は歴然であった。）

とにかく悔しくて、悔しくて涙が止まらなかったことが今でも記憶として残っています。その悔しさが剣道に対する私の心に火を点けたのでした。五年生になり唯一、六年生主体のメンバーに選ばれ、より一層剣道にのめりこんでいく自分がありました。工藤強夫先生は剣道の技術指導を地域の鴨沢氏（市役所勤務・五段・国士館大卒）や丸山氏（家具メーカー勤務・四段・法政大卒）に依頼され、六年生になった時に剣道クラブは青森県下で一番大きい大会である県下剣道三沢大会で初優勝するのですが、（当時私の住むむつ・下北地区は県下では弱小で剣道不毛の地域）このころから剣道が生活の中心になっていました。

中学でも迷わず剣道部に入部し、顧問の先生は後藤健二先生（東奥義塾・中央大卒・五段）で身なりが侍の如き、とても雰囲気のある先生で、当時部員は30名を超えていました、一年生で唯一県大会のメンバーに選拔され、県中体連で初優勝できたのでした。

若先生たちの熱血指導

田名部高剣道部飛躍する

高校進学は一級上の下川原堅蔵先生（早稲田卒・現大湊高校校長・青森県高体連剣道専門部部長・教士七段）が進学した父の母校である県立野辺地高校に柴田正人先生（東京教育大卒・教士七段・現平川市教育長）が指導されており、私も是非でも行きたいと両親にお願いしたのですが、願いは叶わず地元青森県立田名部高校に進学することになったのです。

田名部高校には剣道指導者はおらず、野球部にも入部しようかと考えていた矢先、新採用で田代高之先生（東京教育大卒・教士七段）が赴任されました。身長が一八〇センチを超す大柄な体育教師で、柴田先生とは大学の先輩・後輩の関係でした。田代先生には剣道の基礎・基本は勿論、その後の人生においても大変お世話になる先生のお一人でした。

小・中学とある程度やれたという奢りや自身もあつたのですが、田代先生との稽古は今までは全く違い、「これが剣道か」というほど半端ない衝撃を受けたものでした。当時高校には専用の剣道場がなく、体育館で半コート

の更に半分を柔道部と共用して稽古していたのですが、掛り稽古が始まると、ある部員は仕切りのネットに絡まり、また、非常口から追い出されグラウンドで追い込みなどと今では考えられない愛情？ある稽古を付けて下さいました。その甲斐あって、二年の県新人戦では決勝まで勝ち進み、県下で常勝を誇っていた青森商業高校に僅差で敗れましたが準優勝することが出来、インターハイ出場も現実味を帯びてきたのでした。当時青森県の高校はあまり遠征に出る学校は少なく、一年生から練習試合や、先生の母校である筑波大学へ寒稽古、三年の春休みには新一年生も連れて、筑波大学へ合宿へとワゴン車で行ったものでした。



東北国体（二国体）で、青森県少年男女と教士チーム、後列右端が田代先生、前列左から三番目が筆者

もう一つ忘れられないのは、四月から工藤清行先生（日本大卒・教士七段）が新採用で田名部高校定時制課程に赴任してきたことです。新卒のバリバリ

で合宿等では稽古に参加され、田代先生、工藤先生に稽古をお願いするので、とにかく恐怖の一年でした。

試合では、春季大会、インターハイ予選と宿敵青森商業と三度決勝戦で相見え、念願のインターハイ出場は叶いませんでした。唯一の救いは、同期の津島勲君（大正大卒・錬士六段・現TOTO勤務）が個人戦で優勝し、山梨インターハイの出場権を獲得しました、私は準決勝敗退でインターハイ団体、個人と出場することはできませんでした。その後東北大会、東北総体（通称ミニ国体・秋田県湯沢市）、滋賀県で開催された琵琶湖国体に出場し、私の高校時代の剣道は終了したのでした。進路については、漠然と高校の指導者（教師）になりたいと考えていたので、様々な紆余曲折があつたものの、最後は田代先生のご指導のもと、地元青森大学に進学が決まったのです。



大学3年次の台湾遠征にて、左端工藤先生、前列左から三番目が筆者

大学では、県立高校校長を退職され、元青森県高体連会長の要職もされた故新岡精彌先生（東京高等師範卒・範士八段）が剣道部の師範兼監督として招かれており、充実した大学四年間を過ごすことが出来ました。大学時代の思い出は三年次主将として、台湾に遠征し、視野見聞を広げることが出来た貴重な体験でした。

大学卒業後、念願の教員として今日に至るのですが、今までの剣道人生を振り返ってみると、節目々々で、様々な「縁」を感じずにはいられません。小学生では剣道の道へ導いて下さった工藤剛夫先生、中学では後藤健二先生、高校では田代先生との出会いによって大きく人生が変わったといっても過言ではありません。工藤清行先生との出会いも、後に同じ職場で放課後、共に八段を目指し、二人だけで基本から稽古をしたものでした。大学では新岡精彌先生が教職への道標を教示して下さい、八段の稽古とはこういうものなのかを直接指導してくださいました。

最後になりますが、これからは恩師への感謝の気持ちと「剣縁」を大切に、師弟同行を実践すべく、先生方から頂いた教えを後進に伝え、自分自身も精進を重ねていく覚悟です。

【剣道時代】より

鹿内修 昭和38年青森県むつ市生まれ57歳。県立田名部高校から青森大学に進み、卒業後教員となる。現在、県立弘前工業高等学校教員 剣道教士八段 青森県剣道連盟常任理事 総務部長

武道憲章

武道は、日本古来の尚武の精神に由来し、長い歴史と社会の変遷を経て、術から道に発展した伝統文化である。

かつて武道は、心技一如の教えに則り、礼を修め、技を磨き、身体を鍛え、心胆を錬る修業道・鍛錬法として洗練され発展してきた。このような武道の特性は今日に継承され、旺盛な活力と清新な気風の源泉として日本人の人格形成に少なからざる役割を果たしている。

いまや武道は、世界各国に普及し、国際的にも強い関心が寄せられている。我々は、単なる技術の修練や勝敗の結果にのみおぼれず、武道の真髄から逸脱することのないよう自省するとともに、このような日本の伝統文化を維持・発展させるよう努力しなければならぬ。

ここに、武道の新たな発展を期し、基本的な指針を掲げて武道憲章とする。

(目的) 第一条

武道は、武技による心身の鍛錬を通じて人格を磨き、識見を高め、有為の人物を育成することを目的とする。

(稽古) 第二条

稽古に当たっては、終始礼法を守り、基本を重視し、技術のみに偏せず、心技体を一体として修練する。

(試合) 第三条

試合や形の演武に臨んでは、平素錬磨の武道精神を発揮し、最善を尽くすとともに、勝っておごらず負けて悔まず、常に節度ある態度を堅持する。

(道場) 第四条

道場は、心身鍛錬の場であり、規律と礼儀作法を守り、静粛・清潔・安全を旨とし、厳粛な環境の維持に努める。

(指導) 第五条

指導に当たっては、常に人格の陶冶に努め、術理の研究・心身の鍛錬に励み、勝敗や技術の巧拙にとらわれることなく、師表にふさわしい態度を堅持する。

(普及) 第六条

普及に当たっては、伝統的な武道の特性を生かし、国際的視野に立って指導の充実と研究の促進を図るとともに武道の発展に努める。

昭和六十二年四月二十三日制定
日本武道協議会

剣界 (令和2年度)

令和3年3月発行

発行者 青森県剣道連盟
会長 増田 知 幸
事務局 〒030-0903 青森県青森市栄町1丁目7-8
事務局長 時 吉 重 雄
TEL.090-8788-0832 FAX.017-741-2170
E-mail: tokiyoshi@nittogishi.co.jp
H.P. アドレス <https://aokenren.jp>